

新規採用医薬品

2025.2.4 薬事委員会

番号	投与 区分	先発・ 後発	規制 区分	医薬品名	一般名	規格単位	会社名	薬価	薬効分類
1	注	先発	劇	アドトラーザ皮下注300mgペン	トラロキヌマブ(遺伝子組換え)キット	300mg2mL1キット	レオファーマ	¥41,859.0	抗アレルギー薬-注射(抗IL13抗体)
2	注	先発		アベクマ点滴静注	イデカブタゲン ビクルユーセル	1患者当たり	BMS	¥32,647,761.0	再生医療等製品(CAR-T細胞療法)
3	注	先発		イエスカルタ点滴静注	アキシカブタゲン シロルユーセル	1患者当たり	ギリアド	¥32,647,761.0	再生医療等製品(CAR-T細胞療法)
4	外	後発		イソジンシュガーパスタ軟膏(治験専用)	精製白糖・ポビドンヨード軟膏	1g	iNova=塩野義	¥8.1	外用殺菌消毒薬(ハロゲン類),皮膚潰瘍用剤(ヨウ素製剤)
5	内	先発		イノソリッド配合経腸用半固形剤	経腸成分栄養剤半固形剤	10g	EN大塚=大塚工場=大塚製薬	¥14.4	経腸成分栄養剤
6	外	後発		エピナスチン塩酸塩LX点眼液0.1%「SEC」	エピナスチン塩酸塩液	0.1%1mL	参天アイケア=参天	¥252.9	抗炎症性点眼剤(第2世代抗ヒスタミン薬)
7	内	先発	劇	エブリスディドライシロップ60mg	リスジプラムシロップ用	60mg1瓶	中外	¥974,463.7	脊髄性筋萎縮症治療薬
8	内	先発	劇	オータイロカプセル40mg	レボトレクチニブカプセル	40mg1カプセル	BMS	¥3,468.3	制癌薬-内用(TRK/ROS1阻害剤)
9	注	先発		オスタバロ皮下注カートリッジ1.5mg	アバロパラチド酢酸塩注射液	1.5mg0.75mL1筒	帝人ファーマ	¥16,090.0	骨代謝改善薬-注射(副甲状腺ホルモン)
10	注	先発		キドバレン輸液	アミノ酸・糖・電解質・ビタミンキット	1050mL1キット	大塚工場=大塚製薬	¥2,269.0	電解質・ビタミン・糖類加アミノ酸輸液
11	注	先発		キンダリー透析剤5E	人工透析液	2袋1組	扶桑	¥1,896.0	人工腎臓透析液
12	内	先発		クービック錠25mg	ダリドレキサント塩酸塩錠	25mg1錠	ネクスラファーマ=塩野義	¥57.3	催眠鎮静薬-内用(オレキシン受容体拮抗薬)
13	内	先発		クービック錠50mg	ダリドレキサント塩酸塩錠	50mg1錠	ネクスラファーマ=塩野義	¥90.8	催眠鎮静薬-内用(オレキシン受容体拮抗薬)
14	内	先発	劇	クレセンバカプセル40mg	イサブコナゾニウム硫酸塩カプセル	40mg1カプセル	旭化成ファーマ	¥2,007.8	抗真菌薬-内用(トリアゾール系)
15	注	先発	劇	ケサンラ点滴静注液350mg	ドナネマブ(遺伝子組換え)注射液	350mg20mL1瓶	リリー	¥66,948.0	アルツハイマー型認知症改善薬-注射(抗アミロイドβ抗体)
16	内	先発	劇	ジャイパーカ錠100mg	ピルトプルチニブ錠	100mg1錠	リリー=日本新薬	¥19,465.8	制癌薬-内用(BTK阻害剤)
17	内	先発	劇	ジャイパーカ錠50mg	ピルトプルチニブ錠	50mg1錠	リリー=日本新薬	¥10,201.0	制癌薬-内用(BTK阻害剤)
18	内			デカドロン錠4mg	デキサメタゾン錠	4mg1錠	日医工	¥26.4	副腎皮質ホルモン剤-内用
19	注	先発		テクネピロリン酸静注	ピロリン酸テクネチウム(99mTc)注射液	10MBq	PDRファーマ	¥396.0	診断用薬(放射性医薬品)
20	注	先発	劇	テッペーザ点滴静注用500mg	テプロツムマブ(遺伝子組換え)注射用	500mg1瓶	アムジェン	¥979,920.0	眼科用薬(その他)-眼投与
21	注	先発	劇	トロデルビ点滴静注用200mg	サシツズマブゴビテカン(遺伝子組換え)注射用	200mg1瓶	ギリアド	¥187,195.0	制癌薬-注射(抗TROP-2抗体製剤),抗体薬物複合体
22	注	先発	劇	ノーモサング点滴静注250mg	ヘミン注射液	250mg10mL1管	オーファンバシフィック	¥154,716.0	ポルフィリン症治療薬
23	注	先発	特生	ハイゼントラ20%皮下注1g/5mLシリンジ	pH4処理酸性人免疫グロブリン(皮下注射)キット	1g5mL1筒	CSLベーリング	¥10,373.0	免疫グロブリン製剤
24	注	先発	特生	ハイゼントラ20%皮下注4g/20mLシリンジ	pH4処理酸性人免疫グロブリン(皮下注射)キット	4g20mL1筒	CSLベーリング	¥40,315.0	免疫グロブリン製剤
25	注	先発	劇	ヒフデュラ配合皮下注	エフガルチギモドアルファ(遺伝子組換え)・ゴルヒアルロニダーゼアルファ(遺伝子組換え)注射液	5.6mL1瓶	アルジェニクス	¥604,569.0	FcRn阻害薬
26	内	先発		ブリーバリアクト錠25mg	ブリーバラセタム錠	25mg1錠	UCB	¥373.3	抗てんかん薬-内用(ピロリドン誘導体)
27	内	先発		ブリーバリアクト錠50mg	ブリーバラセタム錠	50mg1錠	UCB	¥609.3	抗てんかん薬-内用(ピロリドン誘導体)
28	内	先発	劇	フリュザクラカプセル1mg	フルキンチニブカプセル	1mg1カプセル	武田	¥5,139.4	制癌薬-内用(VEGFR阻害剤)
29	内	先発	劇	フリュザクラカプセル5mg	フルキンチニブカプセル	5mg1カプセル	武田	¥23,866.9	制癌薬-内用(VEGFR阻害剤)
30	注		劇	プレバナー20水性懸濁注	沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(無毒性変異ジフテリア毒素結合体)	0.5mL1キット	ファイザー		不活化ワクチン
31	注	先発		ブレヤンジ静注	リソカブタゲン マラルユーセル	1患者当たり	BMS	¥32,647,761.0	再生医療等製品(CAR-T細胞療法)
32	注	後発	劇	ベバシズマブBS点滴静注100mg「CTNK」	ベバシズマブ(遺伝子組換え)注射液	100mg4mL1瓶	日本化薬	¥8,141.0	制癌薬-注射(抗VEGF抗体製剤)
33	注	後発	劇	ベバシズマブBS点滴静注400mg「CTNK」	ベバシズマブ(遺伝子組換え)注射液	400mg16mL1瓶	日本化薬	¥30,602.0	制癌薬-注射(抗VEGF抗体製剤)
34	外	後発		ミドレフリンP点眼液	トロピカミド・フェニレフリン塩酸塩液	1mL	日東メディック	¥27.6	散瞳薬(その他)
35	注	先発	劇	ライブリバント点滴静注350mg	アミバンタマブ(遺伝子組換え)注射液	350mg7mL1瓶	ヤンセン	¥160,014.0	制癌薬-注射(抗EGFR/抗MET抗体製剤)
36	歯	先発		リグロス歯科用液キット1200μg	トラフェルミン(遺伝子組換え)液	1,200μg1キット	科研	¥28,317.8	線維芽細胞成長因子製剤-歯科
37	外			リネイルゲル10%	アセチルシステインゲル	10%1g	マルホ		爪軟化剤
38	注	先発	劇	リメタゾン静注2.5mg	デキサメタゾンパルミチン酸エステル注射液	2.5mg1mL1管	田辺三菱	¥1,872.0	副腎皮質ホルモン剤-注射
39	内	先発	劇	ルプキネスカプセル7.9mg	ボクロスボリンカプセル	7.9mg1カプセル	大塚製薬	¥778.6	免疫抑制薬-内用
40	内	先発	劇	レキササティOD錠0.5mg	プレクスピブラゾール口腔内崩壊錠	0.5mg1錠	大塚製薬	¥128.7	精神神経用薬-内用(ドパミンD2受容体部分アゴニスト)
41	注	先発		レギュニールLCa 1.5腹膜透析液	腹膜透析液	2L1袋(排液用バッグ付)	ヴァンティブ	¥1,522.0	腹膜透析用剤
42	注	先発		レギュニールLCa 2.5腹膜透析液	腹膜透析液	2L1袋(排液用バッグ付)	ヴァンティブ	¥1,479.0	腹膜透析用剤
43	注	先発		ロゼバラミン筋注用25mg	メコバラミン筋注用	25mg1瓶	エーザイ	¥10,425.0	筋萎縮性側索硬化症治療薬,ビタミンB12剤-注射
44	注	後発	劇	ロピバカイン塩酸塩0.75%注150mg/20mL「テルモ」	ロピバカイン塩酸塩水和物注射液	0.75%20mL1管	テルモ	¥520.0	局所麻酔薬-注射(アミド型)

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
1	抗アレルギー薬-注射(抗IL13抗体) 劇薬 アドトラザ皮下注300mgペン トラロキヌマブ(遺伝子組換え) キット レオファーマ	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎 通常、成人にはトラロキヌマブ（遺伝子組換え）として初回に600mgを皮下投与し、その後は1回300mgを2週間隔で皮下投与する。	【重要な特定されたリスク】 重篤な過敏症 【重要な潜在的リスク】 重篤な感染症、免疫原性、悪性腫瘍 【重要な不足情報】 なし	【在宅自己注射可】
2	(治験専用) 皮膚潰瘍用剤(ヨウ素製剤) イソジンシュガーパスタ軟膏 精製白糖・ポビドンヨード軟膏 iNova=塩野義	本剤の成分又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者		褥瘡、皮膚潰瘍（熱傷潰瘍、下腿潰瘍） 症状及び病巣の広さに応じて適量を使用する。 潰瘍面を清拭後、1日1～2回ガーゼにのばして貼付するか、又は患部に直接塗布しその上をガーゼで保護する。		
3	経腸成分栄養剤 イノソリッド配合経腸用半固形剤 経腸成分栄養剤半固形剤 EN大塚=大塚工場=大塚製薬	2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.2 牛乳たん白アレルギーのある患者 2.3 胃の機能が残存していない患者 2.4 イレウスのある患者 2.5 腸管の機能が残存していない患者 2.6 高度の肝・腎障害のある患者 2.7 重症糖尿病などの糖代謝異常のある患者 2.8 先天性アミノ酸代謝異常の患者 2.9 妊娠3箇月以内又は妊娠を希望する女性へのビタミンA5,000IU/日以上との投与		一般に、手術後患者の栄養保持に用いることができるが、特に長期にわたり、経口的食事摂取が困難な場合の経管栄養補給に使用する。 通常、成人標準量として1日900～1,500g（900～1,500kcal）を胃瘻より胃内に1日数回に分けて投与する。投与時間は100g当たり2～4分（300g当たり6～12分）とし、1回の最大投与量は600gとする。また、初めて投与する場合は、投与後によく観察を行い臨床症状に注意しながら増量して数日で標準量に達するようにする。なお、年齢、体重、症状及び栄養状態により投与量、投与時間を適宜増減する。		
4	抗アレルギー点眼剤(第2世代抗ヒスタミン薬) エピナスチン塩酸塩LX点眼液 0.1%「SEC」 エピナスチン塩酸塩液 参天アイケア=参天	2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		アレルギー性結膜炎 通常、1回1滴、1日2回（朝、夕）点眼する。		

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
5	脊髄性筋萎縮症治療薬 劇薬 エブリスディドライシロップ 60mg リスジプラムシロップ用 中外	2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		脊髄性筋萎縮症 ＜生後2カ月未満＞リスジプラムとして 0.15mg/kgを1日1回食後に経口投与 ＜生後2カ月以上2歳未満＞リスジプラムとして0.2mg/kgを1日1回食後に経口投与 ＜2歳以上＞リスジプラムとして、体重20kg未満では0.25mg/kgを、体重20kg以上では5mgを1日1回食後に経口投与。	【重要な特定されたリスク】 なし 【重要な潜在的リスク】 網膜毒性、胚胎児毒性、雄性生殖能への影響、上皮組織障害 【重要な不足情報】 IV型SMA患者及びSMN2遺伝子のコピー数が5以上の患者に対する安全性、QT/QTc間隔に対する影響、早産児に対する安全性	
6	制癌薬-内用(TRK/ROS1阻害剤) 劇薬 オータイロカプセル40mg レボトレクチニブカプセル BMS	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		ROS1融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 通常、成人にはレボトレクチニブとして1回160mgを1日1回14日間経口投与する。その後、1回160mgを1日2回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	【重要な特定されたリスク】 中枢神経系障害、間質性肺疾患 【重要な潜在的リスク】 胚・胎児毒性 【重要な不足情報】 肝機能障害患者での使用	【自動車運転注意】 【投与日数制限】
7	骨代謝改善薬-注射(副甲状腺ホルモン) オスタバロ皮下注カートリッジ 1.5mg アバロパラチド酢酸塩注射液 帝人ファーマ	2.1 高カルシウム血症の患者 2.2 次に掲げる骨肉腫発生のリスクが高いと考えられる患者 ・骨ページェット病の患者 ・原因不明のアルカリホスファターゼ高値を示す患者 ・小児等及び若年者で骨端線が閉じていない患者 ・過去に骨への影響が考えられる放射線治療を受けた患者 2.3 原発性の悪性骨腫瘍若しくは転移性骨腫瘍のある患者 2.4 骨粗鬆症以外の代謝性骨疾患の患者(副甲状腺機能亢進症等) 2.5 妊婦又は妊娠している可能性のある女性 2.6 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		骨折の危険性の高い骨粗鬆症 通常、成人には1日1回アバロパラチドとして80μgを皮下に注射する。なお、本剤の投与は18ヵ月間までとすること。	【重要な特定されたリスク】 起立性低血圧、アナフィラキシー 【重要な潜在的リスク】 高カルシウム血症、骨肉腫、心血管系の事象 【重要な不足情報】 腎機能障害患者への投与、男性患者への投与	【在宅自己注射可】 【自動車運転注意】

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
8	慢性腎不全高カロリー輸液用 電解質・ビタミン・糖類加アミノ酸輸液 キドパレン輸液 アミノ酸・糖・電解質・ビタミンキット 大塚工場=大塚製薬	2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.2 高乳酸血症の患者 2.3 高ナトリウム血症の患者 2.4 高クロール血症の患者 2.5 高マグネシウム血症、甲状腺機能低下症の患者 2.6 高カルシウム血症の患者 2.7 高アンモニア血症の患者 2.8 先天性アミノ酸代謝異常症の患者 2.9 血友病の患者 2.10 肝性昏睡又は肝性昏睡のおそれのある患者		経口・経腸管栄養補給が不能又は不十分で、 経中心静脈栄養に頼らざるを得ない慢性腎不全患者（高カリウム血症、高リン血症の患者又はそのおそれのある患者に限る）に対する水分、電解質、カロリー、アミノ酸、ビタミン補給 用時に上下2室の隔壁と上室内にある黄褐色の小室を同時に開通し、十分に混合して使用する。通常、成人には1050mLの維持量を24時間かけて中心静脈内に持続点滴注入する。本剤は、高濃度のブドウ糖含有製剤なので、特に投与開始時には耐糖能、肝機能等に注意する。低速度（目安として維持量の半量程度）で投与開始し、徐々に1日当たりの投与量を漸増して維持量とする。なお、症状、年齢、体重に応じて適宜増減する。		
9	人工腎臓透析灌流液 キンダリー透析剤5E 人工透析液 扶桑			慢性腎不全における透析型人工腎臓の灌流液として用いる。（無糖の透析液では血糖値管理の困難な患者及び他の重炭酸型透析液では高カリウム血症、高マグネシウム血症の改善が不十分な場合、又は高カルシウム血症を起こすおそれのある場合に用いる。）		
10	催眠鎮静薬-内用(オレキシン受容体拮抗薬) 習慣性あり クービビック錠 25mg、50mg ダリドレキサント塩酸塩錠 ネクセラファーマ=塩野義	2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.2 重度の肝機能障害（Child-Pugh分類C）のある患者 2.3 イトラコナゾール、クラリスロマイシン、ポリコナゾール、ポサコナゾール、リトナビル含有製剤、コビシスタット含有製剤、セリチニブ、エンシトレルビル フマル酸を投与中の患者	イトラコナゾール（イトリゾール） クラリスロマイシン（クラリス、クラリシッド） ポリコナゾール（プイフェンド） ポサコナゾール（ノクサフィル） リトナビル含有製剤（カレトラ、ノービア、パキロビッド） コビシスタット含有製剤（シムツーザ、ゲンボイヤ、プレジコビックス） セリチニブ（ジカディア） エンシトレルビル フマル酸（ゾコーバ）	不眠症 通常、成人にはダリドレキサントとして1日1回50mgを就寝直前に経口投与する。なお、患者の状態に応じて1日1回25mgを投与することができる。	【重要な特定されたリスク】 傾眠 【重要な潜在的リスク】 薬物乱用の可能性、自殺念慮・自殺行動、睡眠時随伴症、睡眠時麻痺、ナルコレプシー 【重要な不足情報】 なし	【自動車運転注意】 【投与日数制限】

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
11	抗真菌薬-内用(トリアゾール系) 劇薬 クレセンバカプセル40mg イサブコナゾニウム硫酸塩カプセル 旭化成ファーマ	2.1 リトナビル、コピシスタット含有製剤、イトラコナゾール、ポリコナゾール、クラリスロマイシン、リファンピシン、リファブチン、カルバマゼピン、フェノバルビタール、セイヨウオトギリソウ (St.John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート) 含有食品、フェニトイン、ホスフェニトインナトリウム水和物、ロミタピドメシル酸塩を投与中の患者 2.2 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者	リトナビル (ノービア) コピシスタット含有製剤 (ゲンボイヤ、シムツーザ、プレジコビックス) イトラコナゾール (イトリゾール) ポリコナゾール (ブイフェンド) クラリスロマイシン (クラリス、クラリシッド) リファンピシン (リファジン) リファブチン (ミコプティン) カルバマゼピン (テグレトール) フェノバルビタール (フェノバル) セイヨウオトギリソウ (St.John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート) 含有食品 フェニトイン (アレビアチン、ヒダントール) ホスフェニトインナトリウム水和物 (ホストイン) ロミタピドメシル酸塩 (ジャクスタピッド)	下記の真菌症の治療 ○アスペルギルス症 (侵襲性アスペルギルス症、慢性進行性肺アスペルギルス症、単純性肺アスペルギローマ) ○ムーコル症 ○クリプトコックス症 (肺クリプトコックス症、播種性クリプトコックス症 (クリプトコックス脳髄膜炎を含む)) 通常、成人にはイサブコナゾールとして1回200mgを約8時間おきに6回経口投与する。6回目投与の12~24時間経過後、イサブコナゾールとして1回200mgを1日1回経口投与する。	【重要な特定されたリスク】 肝機能障害、急性腎障害、腎不全、ショック、アナフィラキシー 【重要な潜在的リスク】 皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群) 催奇形性、悪性腫瘍、QT短縮 【重要な不足情報】 なし	
12	アルツハイマー型認知症改善薬-注射(抗アミロイドβ抗体) 劇薬 ケサンラ点滴静注液350mg ドナネマブ(遺伝子組換え)注射液 リリー	2.1 本剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者 2.2 本剤投与開始前に血管原性脳浮腫が確認された患者 2.3 本剤投与開始前に5個以上の脳微小出血、脳表ヘモジデリン沈着症又は1cmを超える脳出血が確認された患者		アルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度の認知症の進行抑制 通常、成人にはドナネマブ (遺伝子組換え) として1回700mgを4週間隔で3回、その後は1回1400mgを4週間隔で、少なくとも30分かけて点滴静注する。	【重要な特定されたリスク】 アミロイド関連画像異常-浮腫/滲出液貯留 (ARIA-E) アミロイド関連画像異常-脳微小出血・脳表ヘモジデリン沈着症 (ARIA-H) 重篤な過敏症反応 (infusion reaction 含む) 【重要な潜在的リスク】 抗血栓薬の併用による重篤な脳出血 【重要な不足情報】 なし	
13	制癌薬-内用(BTK阻害剤) 劇薬 ジャイパーカ錠 50mg、100mg ピルトブルチニブ錠 リリー=日本新薬	本剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者		他のBTK阻害剤に抵抗性又は不耐容の再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫 通常、成人にはピルトブルチニブとして200mgを1日1回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	【重要な特定されたリスク】 感染症、出血、骨髄抑制 【重要な潜在的リスク】 不整脈、二次性悪性腫瘍 【重要な不足情報】 なし	【投与日数制限】

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
14	副腎皮質ホルモン剤-内用 デカドロン錠4mg デキサメタゾン錠 日医工	2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.2 次の薬剤を使用中の患者 デスマプレシン酢酸塩水和物（男性における夜間多尿による夜間頻尿）、リルピピリン、リルピピリン塩酸塩・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩・エムトリシタピン、リルピピリン塩酸塩・ドルテグラビルナトリウム	デスマプレシン酢酸塩水和物（男性における夜間多尿による夜間頻尿）（ミニリンメルト）、リルピピリン（エジュラント、リカムビス）、リルピピリン塩酸塩・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩・エムトリシタピン（オデフシィ）、リルピピリン塩酸塩・ドルテグラビルナトリウム（ジャルカ）	<抗悪性腫瘍剤（シスプラチンなど）投与に伴う消化器症状（悪心・嘔吐）> 通常、成人にはデキサメタゾンとして1日4～20mgを1～2回に分割経口投与する。ただし、1日最大20mgまでとする。 <全身性ALアミロイドーシス> 他の薬剤との併用において、通常、成人にはデキサメタゾンとして1日40mgを1、8、15、22日目に投与する。28日を1サイクルとして、最大6サイクルまで投与を繰り返す。 <上記以外の効能共通> デキサメタゾンとして、通常成人1日0.5～8mgを1～4回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。		【B型肝炎ウイルス再活性化】
15	診断用薬(放射性医薬品) テクネピロリン酸静注 ピロリン酸テクネチウム(99mTc) 注射液 PDRファーマ			骨シンチグラムによる骨疾患の診断 本品185～555MBqを被検者に静注し、1～6時間後にシンチレーションスキャナ又はシンチレーションカメラを用いてディテクタを体外より骨診断箇所に向けて走査又は撮影することにより骨シンチグラムを得る。		
16	甲状腺眼症治療用IGF-1R阻害剤 劇薬 テッペーザ点滴静注用500mg テプロツムマブ(遺伝子組換え) アムジェン	2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.2 妊婦又は妊娠している可能性のある女性		活動性甲状腺眼症 通常、成人にはテプロツムマブ（遺伝子組換え）として初回は10mg/kgを、2回目以降は20mg/kgを7回、3週間間隔で計8回点滴静注する。	【重要な特定されたリスク】 高血糖、炎症性腸疾患 Infusion reaction 聴覚障害 【重要な潜在的リスク】 胚・胎児毒性 【重要な不足情報】 該当なし	

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
17	抗悪性腫瘍剤／抗TROP-2抗体ト ポインメラゼI阻害剤複合体 劇薬 トロデルビ点滴静注用200mg サシツズマブ ゴビテカン(遺伝子 組換え) ギリアド	本剤の成分に対し重度の過敏症の既往歴のある患者		化学療法歴のあるホルモン受容体陰性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌 通常、成人には、サシツズマブ ゴビテカン(遺伝子組換え)として1回10mg/kg(体重)を、21日間を1サイクルとし、各サイクルの1日目及び8日目に点滴静注する。投与時間は3時間とし、初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降は1～2時間に短縮できる。なお、患者の状態により適宜減量する。	【重要な特定されたリスク】 骨髄抑制、感染症、重度の下痢・腸炎、Infusion reaction、間質性肺炎患 【重要な潜在的リスク】 肝機能障害、心臓障害、腎機能障害、血栓塞栓症、腸閉塞、消化管穿孔、消化管出血、アナフィラキシー・胚・胎児毒性 【重要な不足情報】 肝機能障害を有する患者への使用	
18	ポルフィリン症治療薬 劇薬 ノーモサング点滴静注250mg ヘミン注射液 オーフアンパシフィック	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		急性ポルフィリン症患者における急性発作症状の改善 通常、ヘミンとして3mg/kgを1日1回、4日間点滴静注する。ただし、1日あたりの投与量は250mgを超えないこと。		生物由来製品(献血由来) 粘度が高いため、21ゲージ又はこれよりも太い注射用針を使用。インラインフィルターを通して投与。投与後は、続けて生食液等を投与。

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
19	免疫グロブリン製剤 特定生物由来製品 ハイゼントラ20%皮下注 1g/5mLシリンジ、4g/20mLシリンジ pH4処理酸性人免疫グロブリン(皮下注射)キット CSLベーリング	2.1 本剤の成分に対しショックの既往歴のある患者 2.2 高プロリン血症1型又は2型の患者		○無又は低ガンマグロブリン血症 通常、人免疫グロブリンGとして50～200mg (0.25～1mL) /kg体重を週1回皮下投与する。2週間に1回投与する場合には、1週あたりの用量の2倍量 (100～400mg (0.5～2mL) /kg体重) を皮下投与する。なお、患者の状態に応じて、1週もしくは2週あたりの投与量及び投与回数は適宜増減する。 ○慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の運動機能低下の進行抑制 (筋力低下の改善が認められた場合) 通常、成人には人免疫グロブリンGとして1週あたり200mg (1mL) /kg体重を1日又は連続する2日で分割して皮下投与するが、患者の状態に応じて、最大400mg (2mL) /kg体重から投与を開始することもできる。なお、維持用量は200～400mg/kg体重で適宜増減する。		【在宅自己注射可】
20	抗FcRn抗体フラグメント・ヒアルロン酸分解酵素配合製剤 劇薬 ヒフデュラ配合皮下注 エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)・ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)注射液 アルジェニクス	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		○全身型重症筋無力症 (ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限る) 通常、成人には本剤1回5.6mL (エフガルチギモド アルファ (遺伝子組換え) として1,008mg及びボルヒアルロニダーゼ アルファ (遺伝子組換え) として11,200単位) を1週間間隔で4回皮下投与する。これを1サイクルとして、投与を繰り返す。 ○慢性炎症性脱髄性多発根神経炎 通常、成人には本剤1回5.6mL (エフガルチギモド アルファ (遺伝子組換え) として1,008mg及びボルヒアルロニダーゼ アルファ (遺伝子組換え) として11,200単位) を週1回皮下投与する。	【重要な特定されたリスク】 感染症、ショック、アナフィラキシー 【重要な潜在的リスク】 なし 【重要な不足情報】 なし	【在宅自己注射可】 【投与日数制限】 【B型肝炎ウイルス再活性化】
21	抗てんかん薬-内用(ピロリドン誘導体) ブリエビアクト錠 25mg、50mg ブリーバラセタム錠 UCB	本剤の成分又はピロリドン誘導体に対し過敏症の既往歴のある患者		てんかん患者の部分発作 (二次性全般化発作を含む) 通常、成人にはブリーバラセタムとして1日50mgを1日2回に分けて経口投与する。なお、症状により1日200mgを超えない範囲で適宜増減できる。	【重要な特定されたリスク】 攻撃性 【重要な潜在的リスク】 自殺行動、自殺念慮、好中球減少症 【重要な不足情報】 なし	【自動車運転注意】 【投与日数制限】

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
22	制癌薬-内用(VEGFR阻害剤) 劇薬 フリュザラカプセル 1mg、5mg フルキンチニブカプセル 武田	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 通常、成人にはフルキンチニブとして1日1回5mgを3週間連日経口投与し、その後1週間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。	【重要な特定されたリスク】 出血、高血圧、可逆性後白質脳症症候群、消化管穿孔、皮膚障害、静脈血栓塞栓症、動脈解離 【重要な潜在的リスク】 動脈血栓塞栓症、創傷治癒遅延、ネフローゼ症候群 【重要な不足情報】 なし	【投与日数制限】
23	不活化ワクチン 劇薬 プレベナー20水性懸濁注 沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(無毒性変異ジフテリア毒素結合体) ファイザー	2.1 本剤の成分又はジフテリアトキソイドによってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな者 2.2 明らかな発熱を呈している者 2.3 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者 2.4 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者		○高齢者又は肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者 肺炎球菌（血清型1、3、4、5、6A、6B、7F、8、9V、10A、11A、12F、14、15B、18C、19A、19F、22F、23F及び33F）による感染症の予防 ○小児 肺炎球菌（血清型1、3、4、5、6A、6B、7F、8、9V、10A、11A、12F、14、15B、18C、19A、19F、22F、23F及び33F）による侵襲性感染症の予防	【重要な特定されたリスク】 ショック、アナフィラキシー、痙攣（熱性痙攣を含む） 【重要な潜在的リスク】 血小板減少性紫斑病 【重要な不足情報】 なし	(薬価基準未収載)

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
24	<p>制癌薬-注射(抗VEGF抗体製剤) 劇薬 ベバシズマブBS点滴静注 100mg「CTNK」、400mg「CTNK」 ベバシズマブ(遺伝子組換え)注射液 日本化薬</p>	<p>2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.2 喀血(2.5mL以上の鮮血の喀出)の既往のある患者</p>		<p>○治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 ○扁平上皮癌を除く切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 ○手術不能又は再発乳癌 ○悪性神経膠腫 ○卵巣癌</p>	<p>【重要な特定されたリスク】 出血、瘻孔、動脈血栓塞栓症、ショック、アナフィラキシー、過敏症反応、Infusion reaction、高血圧、高血圧性クリーゼ、間質性肺炎、うっ血性心不全、血栓性微小血管症(TMA)、蛋白尿、ネフローゼ症候群、壊死性筋膜炎、創傷治癒遅延、動脈解離、消化管穿孔、胚・胎児発生に対する影響、可逆性後白質脳症候群(PRES)、小児等における骨壊死(顎以外の部位)、骨髄抑制、適応外疾患に対する硝子体内投与後に発現する有害事象、静脈血栓塞栓症</p> <p>【重要な潜在的リスク】 肺高血圧症、顎骨壊死、心障害(うっ血性心不全、動脈血栓塞栓症を除く)、胆嚢穿孔、感染症</p> <p>【重要な不足情報】 なし</p>	
25	<p>散瞳薬 ミドレフリンP点眼液 トロピカミド・フェニレフリン塩酸塩液 日東メディック</p>	<p>2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.2 緑内障及び狭隅角や前房が浅いなどの眼圧上昇の素因のある患者[急性閉塞隅角緑内障の発作を起こすおそれがある]</p>		<p>診断及び治療を目的とする散瞳と調節麻痺 <散瞳> 通常、1回1~2滴を点眼するか、又は1回1滴を3~5分おきに2回点眼する。なお、症状により適宜増減する。 <調節麻痺> 通常、1回1滴を3~5分おきに2~3回点眼する。なお、症状により適宜増減する。</p>		【自動車運転注意】

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
26	<p>制癌薬-注射(抗EGFR/抗MET抗体製剤) 劇薬 ライブリバント点滴静注350mg アミバンタマブ(遺伝子組換え)注射液 ヤンセン</p>	<p>本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p>		<p>EGFR遺伝子エクソン20挿入変異陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 カルボプラチン及びベメトレキサドナトリウムとの併用において、3週間を1サイクルとし、通常、成人にはアミバンタマブ（遺伝子組換え）として点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。 用法用量は添付文書確認</p>	<p>【重要な特定されたリスク】 infusion reaction、間質性肺疾患、重度の皮膚障害 【重要な潜在的リスク】 静脈血栓塞栓症、体液貯留、重度の下痢、胚・胎児毒性 【重要な不足情報】 なし</p>	
27	<p>線維芽細胞成長因子製剤-歯科 リグロス歯科用液キット1200μg トラフェルミン(遺伝子組換え)液 科研</p>	<p>2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.2 口腔内に悪性腫瘍のある患者又はその既往歴のある患者</p>		<p>歯周炎による歯槽骨の欠損 歯肉剥離掻爬手術時に歯槽骨欠損部を満たす量を塗布する。</p>		
28	<p>爪軟化剤 リネイルゲル10% アセチルシステインゲル マルホ</p>	<p>本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p>		<p>巻き爪矯正の補助 巻き爪に爪矯正具を装着後、爪甲全体に適量を塗布し、約24時間後に水又は湯で洗い流す。</p>		(薬価基準未収載)
29	<p>副腎皮質ホルモン剤-注射劇薬 リメタゾン静注2.5mg デキサメタゾンパルミチン酸エステル注射液 田辺三菱</p>	<p>2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.2 デスマプレシン酢酸塩水和物（男性における夜間多尿による夜間頻尿）を投与中の患者</p>	<p>デスマプレシン酢酸塩水和物（ミニリンメルト）（男性における夜間多尿による夜間頻尿）</p>	<p>関節リウマチ 通常成人1回1アンプル（デキサメタゾンとして2.5mg）を2週に1回静脈内注射する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p>		【B型肝炎ウイルス再活性化】

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
30	免疫抑制剤/カルシニューリンインヒビター 劇薬 ルブキネスカプセル7.9mg ボクロスポリンカプセル 大塚製薬	2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.2 強いCYP3A4阻害作用を有する薬剤（イトラコナゾール、ポリコナゾール、ポサコナゾール、リトナビル含有製剤、アタザナビル硫酸塩、ダルナビル エタノール付加物、ホスアンプレナビルカルシウム水和物、コビシスタット含有製剤、クラリスロマイシン含有製剤、セリチニブ、エンシトレルビル フマル酸）を投与中の患者 2.3 生ワクチンを接種しないこと。	イトラコナゾール（イトリゾール） ポリコナゾール（ブイフェンド） ポサコナゾール（ノクサフィル） リトナビル含有製剤（ノービア、パキロビッド、カレトラ） アタザナビル硫酸塩（レイアタツ） ダルナビル エタノール付加物（プリジスタ、プリジスタナイーブ） ホスアンプレナビルカルシウム水和物（レクシヴァ） コビシスタット含有製剤（ゲンボイヤ、ブレジコビックス、シムツーザ） クラリスロマイシン含有製剤（クラリシッド、クラリス、ポノサップ、ラベキュア） セリチニブ（ジカディア） エンシトレルビル フマル酸（ゾコーバ） 生ワクチン（乾燥弱毒生麻しんワクチン、乾燥弱毒生風しんワクチン、乾燥BCG等）	ループス腎炎 通常、成人にはボクロスポリンとして1回23.7mgを1日2回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	【重要な特定されたリスク】 重篤な感染症（日和見感染症を含む）、腎毒性 【重要な潜在的リスク】 心血管系事象、神経毒性、電解質異常（低マグネシウム、高カリウム）、耐糖能異常、長期使用に伴う悪性腫瘍 【重要な不足情報】 妊娠及び授乳中の投与における安全性	【投与日数制限】
31	精神神経用薬-内用(ドパミンD2受容体部分アゴニスト) 劇薬 レキサルティOD錠0.5mg プレクスピプラゾール口腔内崩壊錠 大塚製薬	2.1 昏睡状態の患者 2.2 バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者 2.3 アドレナリンを投与中の患者（アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療、又は歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く） 2.4 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	アドレナリン（アナフィラキシーの救急治療、又は歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く） ポスミン	○<統合失調症> 通常、成人にはプレクスピプラゾールとして1日1回1mgから投与を開始した後、4日以上の間隔をあけて増量し、1日1回2mgを経口投与する。 ○<うつ病・うつ状態（既存治療で十分な効果が認められない場合に限り）> 通常、成人にはプレクスピプラゾールとして1日1回1mgを経口投与する。なお、忍容性に問題がなく、十分な効果が認められない場合に限り、1日1回2mgに増量することができる。 ○<アルツハイマー型認知症に伴う焦燥感、易刺激性、興奮に起因する、過活動又は攻撃的言動> 通常、成人にはプレクスピプラゾールとして1日1回0.5mgから投与を開始した後、1週間以上の間隔をあけて増量し、1日1回1mgを経口投与する。なお、忍容性に問題がなく、十分な効果が認められない場合に限り、1日1回2mgに増量することができるが、増量は1週間以上の間隔をあけて行うこと。	【重要な特定されたリスク】 アカシジアを含む錐体外路症状・遅発性ジスキネジア、痙攣発作、脂質異常症（トリグリセリド、LDLコレステロール、HDLコレステロール）、悪性症候群、麻痺性イレウス、横紋筋融解症、高血糖・糖尿病性ケトアシドーシス・糖尿病性昏睡、無顆粒球症・白血球減少、肺塞栓症・深部静脈血栓症 【重要な潜在的リスク】 自殺行動・自殺念慮、低血糖、衝動制御障害、誤嚥性肺炎 【重要な不足情報】 なし	

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
32	腹膜透析用剤 レギュニール LCa1.5、LCa2.5 腹膜透析液（ツインバッグ） 腹膜透析液 ヴァンティブ	2.1 横隔膜欠損のある患者 2.2 腹部に挫滅傷又は熱傷のある患者 2.3 高度の腹膜癒着のある患者 2.4 尿毒症に起因する以外の出血性素因のある患者 2.5 乳酸代謝障害の疑いのある患者		慢性腎不全患者における腹膜透析 （高マグネシウム血症の改善が不十分な場合で、かつカルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤の投与により高カルシウム血症をきたすおそれのある場合に用いる）		
33	筋萎縮性側索硬化症治療薬, ビタミンB12剤 ロゼバラミン筋注用25mg メコバラミン筋注用 エーザイ	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		筋萎縮性側索硬化症（ALS）における機能障害の進行抑制 通常、成人には、メコバラミンとして50mgを1日1回、週2回、筋肉内に注射する。	【重要な特定されたリスク】 アナフィラキシー 【重要な潜在的リスク】 なし 【重要な不足情報】 なし	【在宅自己注射可】 【投与日数制限】
34	長時間作用性局所麻酔剤(アミド型) 劇薬 ロピバカイン塩酸塩0.75%注 150mg/20mL「テルモ」 ロピバカイン塩酸塩水和物注射液 テルモ	<効能共通> 2.1 本剤の成分又はアミド型局所麻酔薬に対し過敏症の既往歴のある患者 <硬膜外麻酔> 2.2 大量出血やショック状態の患者 2.3 注射部位又はその周辺に炎症のある患者 2.4 敗血症の患者		麻酔（硬膜外麻酔、伝達麻酔） 硬膜外麻酔には、通常、成人に1回20mL（ロピバカイン塩酸塩水和物（無水物として）150mg）までを硬膜外腔に投与する。なお、期待する痛覚遮断域、手術部位、年齢、身長、体重、全身状態等により適宜減量する。 伝達麻酔には、通常、成人に1回40mL（ロピバカイン塩酸塩水和物（無水物として）300mg）までを目標の神経あるいは神経叢近傍に投与する。なお、期待する痛覚遮断域、手術部位、年齢、身長、体重、全身状態等により適宜減量する。		
35	再生医療等製品(CAR-T細胞療法) アベクマ点滴静注 イデカブタゲン ビクルユーセル BMS	1. 再使用禁止 2. 本品の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 3. 原材料として用いる非動員末梢血単核球を採取した患者本人以外に投与しないこと。		再発又は難治性の 多発性骨髄腫		

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
36	再生医療等製品(CAR-T細胞療法) イエスカルタ点滴静注 アキシカブタゲン シロルユーセル ギリアド	1. 再使用禁止 2. 本品の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 3. 原材料として用いる非動員末梢血単核球を採取した患者本人以外に投与しないこと。		以下の再発又は難治性の 大細胞型B細胞リンパ腫 ・びまん性大細胞型B細胞リンパ腫、原発性縦隔大細胞型B細胞リンパ腫、形質転換濾胞性リンパ腫、高悪性度B細胞リンパ腫 ただし、CD19抗原を標的としたキメラ抗原受容体発現T細胞輸注療法の治療歴がない患者に限る。		
37	再生医療等製品(CAR-T細胞療法) ブレヤンジ静注 リソカブタゲン マラルユーセル BMS	1. 再使用禁止 2. 本品の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 3. 原材料として用いる非動員末梢血単核球を採取した患者本人以外に投与しないこと。		●以下の再発又は難治性の 大細胞型B細胞リンパ腫 ・びまん性大細胞型B細胞リンパ腫、原発性縦隔大細胞型B細胞リンパ腫、形質転換低悪性度非ホジキンリンパ腫、高悪性度B細胞リンパ腫 ●再発又は難治性の 濾胞性リンパ腫 ただし、CD19抗原を標的としたキメラ抗原受容体発現T細胞輸注療法の治療歴がない患者に限る。		